合否判定の方法及び基準

入学者選抜における合否判定の方法及び基準は、以下のとおりです。

【特待奨学生選抜】

調査書および志望理由書を主な資料とした上で、面接試験の結果を踏まえて合否判定を行います。調査書においては主に知識・技能、主体性等を評価し、志望理由書においては、入学意欲や適性、入学後の学びを確認し、思考力・判断力・表現力等を評価します。面接試験では、知識・技能に加えて、思考力・判断力・表現力、そして主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。

特に、「特待奨学生として堅い決意があるか」、「特待奨学生として他の学生の模範となり得る能力・適性が備わっているか」を問います。

【学校推薦型選抜】

出身学校長の推薦に基づき、推薦書および調査書を主な資料とした上で、面接試験の結果を踏まえて合否判定を行います。推薦書・調査書においては、主に知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等を評価します。

面接試験では、入学意欲と適性を確認するとともに、知識・技能に加えて、思考力・判断力・表現力、そして主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。

【総合型選抜】

調査書および志望理由書の内容、また面接試験の結果を基に、総合的に合否判定を行います。調査書においては主に知識・技能、主体性等を評価し、志望理由書においては、入学意欲や適性、入学後の学びを確認し、思考力・判断力・表現力等を評価します。

面接試験では、知識・技能に加えて、思考力・判断力・表現力、そして主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。

【検定型選抜】

調査書および志望理由書の内容、また検定試験結果を主な資料とし、合否判定を行います。調査書においては主に知識・技能、主体性等を評価し、志望理由書においては、入学意欲や適性、入学後の学びを確認し、思考力・判断力・表現力等を評価します。

【一般選抜】

個別筆記試験の成績、ならびに調査書の内容を総合して、合否判定を行います。合否ライン上で志願者が同点で並んだ場合、調査書の内容を基に評価し、志願者間の順位を付けます。

調査書においては主に知識・技能、主体性等を評価し、個別筆記試験では、知識・技能に加えて、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等を適切に評価します。

【社会人選抜】

調査書および志望理由書を主な資料とした上で、面接試験の結果を踏まえて合否判定を行います。調査書においては主に知識・技能、主体性等を評価し、志望理由書においては、入学意欲や適性、入学後の学びを確認し、思考力・判断力・表現力等を評価します。

面接試験では、知識・技能に加えて、思考力・判断力・表現力、そして主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。

【外国人留学生選抜】

日本語小論文および面接試験の成績により、総合的に順位付けを行い、合否判定を行います。日本語小論文では、文章内容や文章表記等の観点から、知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価します。面接試験では、入学意欲や適性、入学後の学びを確認し、知識・技能に加えて、思考力・判断力・表現力、そして主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。

また、日本語能力試験の成績および日本留学試験（日本語）の成績等も参考にします。